

7	CAS 番号：77458-01-6	物質名：ピラクロホス
---	-------------------	------------

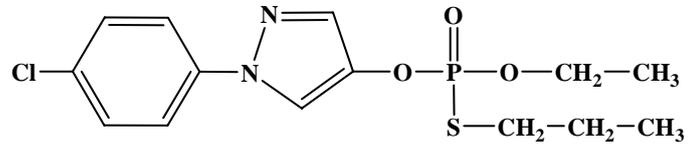
化審法官報告示整理番：

化管法政令番号：1-183

分子式：C<sub>14</sub>H<sub>18</sub>ClN<sub>2</sub>O<sub>3</sub>PS

構造式：

分子量：360.80



### 1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 33 mg/L (20℃)、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 3.77、蒸気圧は 1.20×10<sup>-8</sup> mmHg (=1.60×10<sup>-6</sup>Pa) (20℃)である。

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質として指定されている。主な用途、排出源は農薬 (殺虫剤) とされている。平成 15 農薬年度の国内生産量は 51.6t、輸出量は 0.4t (ともに原体換算)とされている。

### 2. ばく露評価

化管法に基づく平成 15 年度の環境中への総排出量は 30t となり、そのうち届出排出量は 0.30t で全体の 1%弱で、届出外の排出量が多い。届出排出量の排出先は全て公共用水域であり、届出排出量の多い業種は農薬製造業のみであった。

届出外排出量を含めた環境中への排出は土壌が大部分を占めており、多媒体モデルを用いて予測した環境中での媒体別分配割合は土壌が 99.8%であった。

水生生物に対するばく露を示す水環境中への予測環境中濃度 (PEC) は、環境中濃度が得られていないため設定できなかった。

### 3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、魚類モルミュルス科 *Pollimyrus isidori* の 72 時間 LC<sub>50</sub> 40 μg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 1,000 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC) 0.04 μg/L が得られた。慢性毒性値については知見が得られなかったため、本物質の PNEC は魚類の急性毒性値から得られた 0.04 μg/L を採用した。

現時点では環境中濃度に関するデータが得られなかったため、生態リスクの判定はできない。生産量、環境排出量等の推移を見守りつつ、生態毒性及び環境中濃度の把握の必要性を検討する必要があると考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価 結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (μg/L)		
魚類	急性	LC <sub>50</sub> 死亡	1,000	0.04	淡水	—	—	×
					海水	—	—	

### 4. 結論

	結論	判定
生態リスク	生態リスクの判定はできない。生産量、環境排出量等の推移を見守りつつ、生態毒性及び環境中濃度の把握の必要性を検討する必要があると考えられる。	×

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候

補、×：現時点ではリスクの判定はできない